

1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2090100500		
法人名	高田産業 有限会社		
事業所名	グループホーム太陽 まゆみだの家		
所在地	長野市檀田2丁目23-10		
自己評価作成日	平成31年2月1日	評価結果市町村受理日	令和元年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2090100500-00&ServiceCd=320&Type=sea
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	有限会社 エフワイエル
所在地	長野県松本市蟻ヶ崎台24-3
訪問調査日	平成31年3月27日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

運営理念が事業所の目指す指針となり、「ご利用者様とご家族様の幸せを追求する」ことを共有、実践しようと日々創意工夫しています。
 家にいるときと同じ「当たり前の日常」を大切に、今まで生きてきたそれぞれのご利用者様の生活スタイルや個性を大切に、日々安心と喜びのある日常づくりに邁進しています。
 また、医療連携の充実とともに「終末期と看取り」に対する研修や体制づくりを行い、ご利用者様の最期をどう過ごすことができるかを職員皆で考え大切にしています。

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

静かな住宅街を一步入った、当たり前の日常を大切に、玄関や各ユニット入り口の施錠をしないグループホームである。また、利用者の中には回想法の実践として、系列のデイサービスの大人の学校に週1回通学する者もあり、そのため、「宿題をやらなくちゃ」という利用者もいる。生きてきた時代背景もあり、向学心や青春時代の思い起こしが認知症状の進行を抑えている。
 家族アンケートにおいては医療との24時間連携により、利用者だけでなく、家族への安心感の提供が高く評価されている。
 また、これら介護環境だけでなく、介護を提供するというよりもスタッフを提供しているという意識があるのか、社会人としての教育から始まる社員教育の質の高さが上げられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名(すみれ) ※1ユニットの場合は2ページめは必要ありません。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	66	職員は、活き活きと働いている。 (11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

ユニット名(あじさい)

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど揃っていない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている。 (11, 12)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

自己評価及び外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	日々創意工夫を行い、理念にある「利用者 と家族の幸せ」を追求することで、太陽にし かないご利用者とご家族の幸せづくりに邁 進し、理念が職員の道しるべとなっていま す。	理念の理解、浸透が関係者に進んできてお り、利用者の個性を重んじた支援が利用者 への居心地の良い空間の提供という形に表 れ始めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している。	お茶のみサロン、オレンジカフェ、地域行事 には毎回参加し、地域の方々とのつながり を大切にしています。 また、近所へのお買い物やお散歩時に挨拶 をする等、当たり前の日常を大切にしていま す。	地域の方々との交流や散歩を兼ねた週2回 の買い物などを楽しみにする利用者も多く、 日常的なかかわりが今までの暮らしの継続 につながっており、利用者の安心する姿も見 られる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている。	オレンジカフェは地域の方々と沢山の交流 ができ、日常会話の中から、グループホーム についてなど、興味を持たれる方が多い です。 今後も地域行事への積極的な参加を通して 認知症の理解等、知っていただく取り組みを 実施します。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評 価への取り組み状況等について報告や話し合い を行い、その意見をサービス向上に活かしてい る。	ご利用者様の生活状況や避難訓練につい て、事業所での看取りについての詳細等も 報告し、区長、民生委員、地域包括支援セ ンターの方々との意見交換し合う良い機会と なり、多岐にわたり報告、相談、検討できる 場面も増えてきています。	定期的な開催により、参加メンバーによる意 見に検討を加えてホームの運営改善に活か せる取り組みの努力がみられる。	参加メンバーによる意見交換などを通 じて、運営に活かせるアドバイス等が 更に得られる環境づくりの工夫を期待 したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議に参加いただき、ご利用者様やホームの活動報告をするとともに、地域の状況（認知症、独居高齢者等の受け入れ）などの情報共有、相談、対応等、協力関係を築いています。また、疑問点、問題点等があれば、市の担当者と連絡を取り合い、指導、助言、確認を行っています。	市担当者とは事業所や利用者の課題、問題点等の解決に向けての連携は図られている。 また、独居高齢者、生活弱者の方の市のニーズを共に考えるなど、事業所の柔軟な対応と協働関係が視られる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ご利用者様の尊厳や、施錠を含めた身体拘束についての勉強会を実施しています。定期的に身体拘束等適正化委員会を開催し、実際のホームで起こりうる事例を検討し、「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」についての勉強会を実施しています。	前回の外部評価の目標達成計画を基に、重点的に取り組んでいる。 「身体拘束等適正化委員会」を設置し、身体拘束廃止と利用者の尊厳、主体性に対する指針を明らかにするとともに、年2回の定期的な研修や、新規採用職員教育の徹底、また、会議やミーティングの中で拘束にあたっていないかの話し合いがなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待や拘束に関する新聞報道等、時事関連の情報を共有し、会議時には自分たちに置き換えて確認し合います。 また、職員間でもお互いの行動、言動に気をつけ目を向け合い、虐待の防止を徹底しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者、リーダーは研修、勉強会を行い制度の理解、必要性について理解しています。 また、ご家族や地域包括支援センター等と必要性に応じての相談、情報提供に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、利用料金等の説明を行い、ご家族様の不安や疑問点について話し合い、理解、同意していただいています。 また、法改正による料金改正時等、その都度ご家族様への説明文やご報告により、ご理解、ご承諾頂けるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項説明書にホーム、公的な苦情相談場所を明確にするとともに、太陽通信や意見・投書箱等により、伝えやすい雰囲気作りに努めています。 また、ご家族様の面会時には職員及び管理者との談話、相談の機会を設け、表情、言動等を観察し、不安や疑問点の残ることのないように努めています。	開かれた施設、信頼される施設作りに努めており、この継続の維持が、謳う理念の実践に大いに寄与しているものと推測できる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議、勉強会等により、職員との意見交換を行う機会があります。 ご利用者様のケア、チーム体制の構築、あるいは職員の働き方について等、様々な場面で全員の言葉に耳を傾け、必要なことを反映させています。	ユニット・リーダー会議等において職員の意見を聞く機会を設け、そこで出された意見などを参考に運営に反映している。	個々の職員の経験・意見への反映について、どのように改善したかなどの周知を進めて、全職員が参画意識を更に持てる仕組みづくりも必要と思われる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は定期的に全職員と面談を行い、職場環境・条件の整備についてや、各自の目標設定、意欲向上につなげております。 また、リーダーはキャリアアップについても話し合い、どんなリーダー像を目指すかを共有し、ビジョンを明確にできるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	OFF-JTは社会人スキル、専門スキルの研修を全職員対象に実施し、太陽のスタッフとして資質の向上に取り組みました。 また、新人育成に対するOJTの資質向上により、新人職員が安心して働くことのできる環境に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	病院との連携により、同業交流、意見交換を行う機会があります。 今後も勉強会、情報交換会等の機会をつくり、資質向上に取り組みます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメント、ケアプランを参考に、ご利用者様とのコミュニケーションを中心に、生活をしていくうえでの不安や心配に耳を傾け、ご利用者様の安心と信頼関係作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	申込み、相談、面談等、ご家族様の様々な思い、困りことや不安などを伺い、様々なホーム事例やホームの状況なども交え、ご家族様と共に考え、受け止め、改善できるように前向きな話し合い、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談申し込み、面談等を行う際、できるだけ細かい情報を頂き、ご利用者様、ご家族様はどのような心配や、悩みをお持ちなのか、どのような支援を必要としているのか等、確認して状況に応じた対応を行うように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩であるご利用者様の意見や尊厳を大切にし、ご利用者様の性格、病状、個性を理解し、職員の一方向的な思いで行う指示や行動を控え、より良い関係作りを心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様との面会時、職員はご利用者様の生活状況を話すなど、日々の中で信頼関係を築き、運営推進会議への参加や敬老会等の家族行事への参加により、ご家族様と共にご利用者様の考え、気持ちを大切に信頼関係の構築に取り組んでいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの関係となっているボランティアさんや来訪する友人、知人も多く、事前にご連絡をいただいた時には、ご本人にお伝えし、来訪を楽しみにする場面もあり、これまでのご縁やつながりを大切にしたい取り組みの継続に努めています。	近所から入所された方には友人や慣れ親しんだ方の来所も多く、また、馴染みの美容院へ行く際などには家族の協力のもとに実施している。 また、入所してからボランティアの方と馴染みとなり、良好な関係作りがホームでの生活に張りを与えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様同士の相性、個性、性格を把握し、普段の生活の中で、役割、レクリエーション等、生活の場面で職員がご利用者様同士の架け橋となり、支え合える関係づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設、病院等に移られたご利用者様、ご家族様と面会させていただいたり、ご連絡を取らせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	リビングでお手伝いをされる方、塗り絵や、大人の学校、手芸など、手作業や脳活性リハビリなどを楽しみにされる方、お部屋でゆっくりと過ごされる方等、それぞれの暮らし方を大切にしています。 また、認知症症状やADL状況を理解し、安心できる空間と時間を大切に、様々な思いや希望を多角的な角度で検討し話し合っています。	心身状況や趣味・嗜好に合わせての検討を加えて、それをホームでの暮らし作りの反映に努めている。	今後の症状の進行・重度化で、思いや意向の把握が困難となった際に活用できる、支援ツールなどの導入・活用の検討は期待したいところである。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご利用者様、ご家族様、関係機関(地域包括支援センターや病院、居宅のケアマネジャー等)からの情報や話し合いをアセスメントシートにまとめ、スタッフ間で情報共有し、日常生活の疑問や生活歴等、面会時にご家族様から情報を頂き、今までの暮らしや思いの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の申し送り事項や総合チェック表、会議等による現状の確認、連携病院による心身状況やADL等の情報共有を行い、日常生活において職員の僅かな気づきも記録し、有する力、出来ることに目を向けて、その人らしい生活の支援に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人様、ご家族様の思いを基にケアプランを作成し、会議などで職員全員でモニタリングを行います。 また、主治医の意見や終末期等についての相談、話し合いなども反映させた介護計画の作成に努めています。	利用者や家族から聴取した内容を基に介護計画に反映し、計画の実施後のモニタリングや評価は職員会議にて職員が意見を出し合い、介護計画に反映するようにしている。 また、モニタリングや評価は業務日誌に利用者ごとに記録している。 なお、職員の意見を介護計画に反映するプロセスが分かりにくいと感じる。	情報の整理を意識したファイリングや関係書類の保管年数に基づく整理整頓を進めて、更に分かりやすくすることも必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	業務日誌、ケース記録等に様々なご利用者様の状況を記入し、情報の記録化を進め、スタッフで情報共有を行い、モニタリング、ケアプランに反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者様、ご家族様の状況を理解し、様々なニーズに対応していける事業所づくりに取り組んでいます。 今後もご利用者様、ご家族様のニーズに臨機応変に対応できる事業所づくりに努めます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	日常生活の中での交流(あいさつや会話)、お茶飲みサロンや地域御神輿などに参加し、また、地域のボランティアの皆さんと1日を過ごしたりと、地域の温かさを感じることで生活に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医との24時間対応、往診協力体制を築き、専門医等、状況に応じて適切な医療を受けることのできる体制です。 また、受診ノートにより、全スタッフで情報共有できる環境を整え、ご家族様に対しても都度、連絡・報告しています。	24時間対応の医療機関との連携が出来ており、対応窓口があるという事で、家族だけでなく、職員も緊急時の安心感を得ている。 また、歯科も同じ医院が実施しているため、個々の利用者に総合的に関わっていただくことにより、日々安心して生活していくことが可能である。 なお、他の医療機関の利用の際は、ホームでの対応や家族による対応など、臨機応変な対応がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間、365日の体制でご利用者様の状況変化に対して相談、受診等の対応ができる体制を築き、ご利用者様の体調変化や不安に対しても相談できます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各ご利用者様のかかりつけの医療機関との信頼関係を築き、退院前の本人の状況から退院後の対応までを相談できる体制を整えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご利用者様の状況変化等により、ご家族様との話し合いの場を設け、事業所、連携医師と今後の方向性やご家族様、ご本人の意向を確認しています。 また、職員はケア会議等で終末期についてのケア方法や方針についての理解、情報共有等に努め、チームによる支援に取り組んでいます。	利用者や家族の意向を聞き取りしながら、話し合いを設けている。そして、事業所と連携病院との情報共有も良好で、重症化や看取りに向けて、医師、訪問看護師等の対応もしている。	利用者や家族の意向については、医師、訪問看護師、医療的関係者、ホームリーダー層は事前に把握しており、一般職員への周知のタイミングについての検討を進め、全職員が24時間、安心して悔いのない介護の提供ができる環境整備も必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	様々な非常事態に備えて、連絡方法や避難方法等のマニュアルを整え、訓練、研修を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	昼夜を含め様々な場面を想定しながら避難訓練を行い、全職員が迅速に非常事態や災害に対応できるようにしています。 地域との連携については地域住民、消防団との話し合い等を行い、今まで以上に互助関係づくりに努めていきます。	利用者や職員が参加する夜間訓練を実施し、ホーム全体の意識付けに努めている。また、リーダーは災害の危険個所についての把握にも努めている。	火災訓練だけでなく、地震などの災害への地域住民との合同訓練などの取り組みも期待したい。 また、契約書等に非常災害時における避難場所や連絡先等の記載も期待したいところである。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	訪室時のノックだけでなく、入室の際には常に声をかけてプライバシーの保護に努めています。 ご利用者様を人生の先輩と尊び、親しさの中にも礼儀をわきまえた言動を行っています。	利用者の人格を尊重し、時間帯、場所や環境などにも注意をはらいながら、部屋に入際にはひとり一人の特性に合わせた声掛けを行っている。 また、声のトーンや強弱、ボディタッチなども活用して、言葉遣いも丁寧で誇りやプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常の中での思いや希望を聞き、様々な場面で複数の選択肢を提供することで喜び、役割、思いに対する自己決定できる場面作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	優先すべきは「ご利用者様の気持ち」であることを理解し、業務優先ではなく、その人らしさ、一人ひとりのペースを大切に支援できるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎日の朝の洗顔、ひげ剃り、整髪に気を配り、馴染みの美容院へ行くご利用者様もおります。 また、外出時にはお化粧をし、一緒にお出かけの服を選ぶなど、その人らしさを大切に取り組んでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立表を確認し、栄養バランスを考えると同時に、目でも楽しんで頂けるよう色どりにも気を配っています。食事メニューをご利用者様と一緒に考え、味付けを教えて頂きながら調理、盛り付け、片付け等、一緒に行っています。	昼食の際には利用者が、「ポテトサラダを作った」と自慢する姿もあり、職員と一緒に食事作りが本人の自信につながっていることと理解する。 また、隣のユニットでは誕生日献立ということで、誕生月の利用者が希望したものが出されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量はチェック表により確認、把握でき、個々の健康状態に応じて、水分摂取量、食事量などバランスや健康を確保できるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアについては、ブラッシングはできる限りご自身でやって頂き、自立されている方には声かけ、見守り、確認をしています。 また、介助が必要な方には職員が仕上げを行い、口腔内の清潔保持に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	ご利用者様個々の排泄パターンをチェック表等を参考にして、声かけ、誘導等、必要に応じた介助を行い、一人ひとりの排泄状況に合わせ、トイレでの排泄、自立にむけた排泄支援に努めています。	利用者個々に記録されたチェック表を活用して声掛けを行っている。 また、声掛け時にも周囲の環境に留意しながら、トイレに誘導しており、利用者の羞恥心・自尊心に配慮していることも容易に理解できる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	運動や食事、水分での予防、腹部マッサージ等の工夫を行い、個別によっては医師との相談により予防、対応に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	午前、午後などの時間帯は決めず、「汗をかいたから」、「買い物や散歩に出かけたい」等、ご利用者様の希望や状況に応じて入浴を楽しんでいただけるよう努めています。また、季節やお花などの入浴剤なども取り入れ、お風呂が楽しみな時間になるよう心掛けています。	入浴は時間帯を決めずに、その時の天候、温度、活動量や、何よりも利用者の体調や希望に配慮しながら行っている。また、お風呂は個浴式で利用者に合わせた工夫を取り入れ、入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご利用者様の状況、その日の体調や希望により必要な休息を取っていただき、不安がある時はゆっくりと話を聞いたり、一緒にお茶を飲んだりして安心できる環境を整え、ご自分のペースで気持ちよく安眠できる環境づくりに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬による目的を理解し、副作用、変化等に留意しながら、職員一人ひとりが責任を持ちながらも、ダブルチェックできる体制を作り、服薬支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	季節の行事や日常の散歩、役割、手芸や音楽等、各自が喜びあるメリハリのある生活を過ごし、一緒にお茶を飲んだり、時にはお部屋でお話を聞くなど、当たり前の日常の小さな喜びを大切にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩、ドライブ、畑や買い物、日向ぼっこに隣の公園へ行くなど、日々の生活の中で外に出ることが「当たり前の日常」となっています。また、ご本人の希望を聞き、昔馴染みの美容室へ行かれるご利用者様もおります。	ホームの目の前には公園があり、日々の日常のリズムとして定着し、季節を味わいながら散歩を楽しんでいる。近くには買い物を楽しめる店舗も多数あり、自分好みのおやつを買いに行くなど、立地条件を活かした外出の機会も多い。また、法人全体で取り組んでいる回想法を取り入れた取り組みでは、デイサービスや各ホームの利用者とふれあう機会となり、毎週の集合が日常的な楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	「お金を所持、使う事」の大切さを職員は理解し、日々のお買い物やオレンジカフェ等、可能な限りお支払いをご利用者様ご自身にお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ハガキやお手紙はご本人と一緒に読み上げ、家族や友人からのお手紙を楽しんでいただくよう配慮しています。 今後は大切な方と葉書などのやり取りができるように、課題として取り組んでいきたいと思えます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	定期的に職員皆で清潔、整理整頓、四季を感じられる心地よい空間づくり等に心がけています。 特に季節感のある花を飾ったり、壁面や洗面所に手作りの飾りつけを行うなど、明るい雰囲気、居心地のよい共用空間づくりを心がけています。	各ユニットには利用者や職員の作品が飾られ、利用者からは「これはあの人の作品、あれはあの職員が作ったもの」との説明や、自分の作品も自慢げに「ここにあります」との声も聞かれる。 各ユニットの入り口にはメロディホーンがつけられており、ドアを開けると優しい音を響かせている。 また、自室には繊細な色使いの塗り絵や家族の写真なども展示・掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングではソファでゆっくりと過ごす時間や、皆で歌を歌い、お茶を楽しむ場面も多くあります。 また、キッチンでは職員と食事作りの相談をするなど、それぞれのご利用者様が思い思いに過ごせる居場所づくりに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室空間はご家族の写真や思い出の品等、それぞれの大切な品物やお花等を飾っていただき、自分らしいお部屋作りに努めています。 また、衣類に拘りや不安があるご利用者様には、タンスに衣類の表示をして分かりやすくする等、工夫し安心できるよう努めています。	個室には備え付けの家具等はなく、仏壇や自分で持参した馴染んだ家具が置かれ、利用者が希望して制作した細かく彩色された塗り絵などが飾られている。 利用者の希望する衣類、調度品等の環境にも、それぞれが落ち着く雰囲気を醸し出していることが確認できる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご利用者様の「できること」と「危険なこと」を理解、把握するためにヒヤリ・ハットを出し合い、集計、確認、検討等を行うことで、安全と自立のバランスを保つよう努めています。		